



# 関ロータークラブ

URL <http://www.seki-rc.org/> E-mail [seki-rc@abelia.ocn.ne.jp](mailto:seki-rc@abelia.ocn.ne.jp)  
TEL (0575)22-9332 FAX(0575)22-9977

RID2630 ROTARY CLUB OF SEKI ■会長 藤井 淳 ■副会長 古田貴巳 ■幹事 三輪雄彦



2015~16 年度 国際ローターテーマ  
「世界へのプレゼントになろう ( Be a gift to the world )」  
RI 会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

2015~16 年度 関ロータークラブテーマ  
「 ONE FOR ALL , ALL FOR ONE 」 第50代会長 藤井 淳

第 2383 号

平成 27 年 8 月 22 日 (土)

### 前例会の記録 第 2382 回 8 月 11 日(火)12:30

「ローター財団地区研修セミナーの報告」

会長 藤井淳

#### ◆開会点鐘

#### ◆「君が代」「奉仕の理想」斉唱

#### ◆ビジター紹介

関中央ロータークラブ 会長 喜久生明男様  
副会長 石原 妙生様  
幹事 古田 博文様

#### ◆会長挨拶 藤井淳



先日 8 月 6 日に関中央 RC の例会に参加させていただきましたが、1945 年の同じ 8 月 6 日には広島に原子爆弾 (原爆) が投下され、その 3 日後の 9 日には長崎にも原爆が投下され、多くの一般市民の命が奪われました。大変残念であると同時に憤りも覚えると喜久生会長が仰ってみえましたし、私も全く同意見であります。

さて原爆の被害のひとつに、原爆の爆発に伴う熱線と放射線による火傷があります。また原爆とは直接関係ありませんが、本日は紫外線による火傷 (いわゆる日焼け) に関する話題をお話しさせていただきます。

この夏は例年に無く猛暑が続いております。屋外で長時間の作業やスポーツをされる時や、先日の高木守道杯、タグラグビー講習会などでも日焼け止めを塗られた方が多いと思います。しかし学校では原則日焼け止め (サンスクリーン剤) 禁止のところが多いようです。ある中学校では、日焼け止めや制汗剤は、原則として家で塗るのみとし、学校での使用は認めていません。健康上の事情により学校での使用が必要と認められる場合には、担任または部活動顧問に「使用理由書」を提出して下さい、としていますし、同じような対応をとっている学校が多いようです。特にプールでは、水質悪化に繋がることとして使用禁止にしているところが、学校のみならず、一般のプールでも多いようです。私が学校医を勤める〇〇小学校も許可制で、学校全体でたった一人の児童が理由書を提出して、日焼け止めを使用しているのみです。日本臨

床皮膚科医会は学会の統一見解として、「学校生活における紫外線対策に関する具体的指針」(2011 年 10 月)において、「サンスクリーン剤を上手に使う」ことを提言し、「たっぷり均一に」「2、3 時間ごとに重ね塗りすること」を勧めています。子どもが使うのに適したサンスクリーン剤、学校生活で用いるのに適したサンスクリーン剤は以下の条件を満たすものが推奨されます。

①「SPF 15 以上」、「PA ++ ~ +++」を目安 (普通の学校生活においては高 SPF のものをむやみに使う必要はありません)

②「無香料」and「無着色」の表示があるものに制限

③ プールでは「耐水性」or「ウォータープルーフ」表示のあるもの

WHO (世界保健機関) は 2003 年の時点で、「日焼け防止と学校」(Sun Protection and Schools) という冊子を作成しています。そこで強調されているのは、子ども時代に紫外線を浴びることが後の人生に大きな負の影響をもたらすということです。炎天下での部活動は、肌をやけどするだけでなく、長い人生においても健康リスクを高めてしまいます。WHO は皮膚がん予防のため「子供のうちから紫外線対策をすべきだ」と提言しています。関市内の皮膚科専門医の先生にも確認したところ、紫外線を皮膚に多く浴びることは皮膚の老化を進め、皺になりやすい。特に皮膚が赤くなるタイプの人は危険であり、日焼け止めは積極的に塗ることを勧める、とのコメントを頂いています。

次に日焼け止めを塗ってプールに入ると、基準を逸脱するほど水が汚れるか、という話題についてお話しします。日本化粧品工業連合会 (港区) によると、日焼け止めは基本的には油性の商品で、水に接しても溶け出しにくいものとしています。皮膚科医らが 2007 年、秋田県の小学校で児童 60 人中半数の 30 人に日焼け止めを体全体に塗布して約 2 カ月、体育の授業でプールを利用した後、水質を調べたところ、日焼け止めによる汚染は認められませんでした。こうした結果を受け日本臨床皮膚科医会は 2011 年、「学校生活における紫外線対策に関する具体的指針」をまとめ、プールの授業で必要なときには使用を許可するよう求めました。プールの水質基準

を設定する厚生労働省と文部科学省は日焼け止めの使用を禁止していません。ただ、日本学校保健会が発行するマニュアル「学校における水泳プールの保健衛生管理」に「(日焼け止めを) 無条件に全員が使用することを容認すると、プール水の汚れの要因になります」との記述があります。日本臨床皮膚科医会学校保健委員会の島田委員長は「この見解が影響している可能性もある」とみていて、同会はこの記述を残すかどうかも含め、マニュアルの見直し作業を進めています。

海外では紫外線の害が深刻なオーストラリアの紫外線対策は、世界で最も歴史が古く、紫外線の害を予防しようという考えは国民の間に広く浸透しています。たとえば「ノーハット・ノープレイ (No Hat No Play)」ということで、帽子をかぶらない子どもが校庭で遊ぶことを禁じている学校が少なくありません。日光の当たる身体の全ての部位にサンスクリーン剤を塗ることを義務づけ、各クラスにサンスクリーン剤を常備しています。紫外線は白内障の原因になるなど、目にとっても有害なため、サングラスの着用を義務づけたり、サングラスの購入に対して補助をしている学校もあります。オーストラリアと日本では皮膚ガンの発生率が違いますが、遠い国の話と片づけてしまって良いもののでしょうか。日本でも昔と比べてオゾン層が破壊されたため地表に届く紫外線量は、増加しています。ある皮膚科の医師は、自分の子供にはしっかりと日焼け止めを塗っているとの情報もあります。

最後に本日言いたかったことは、オーストラリアのように子供達全員に日焼け止めを塗るべきだ、ということまで申し上げるつもりはありません。しかし先程お話した紫外線による健康被害がわかっている以上、日焼け止めを希望する子には、もっと気軽に使用できるようにしても良いのではないのでしょうか。少なくとも使用理由書を提出する必要があるのか、疑問に思います。学校生活における紫外線対策に関する具体的指針」の一番最後には、紫外線に短時間当たっただけで、真っ赤になるけれど色素沈着にならないお子さんのケアは大切ですよと、記載されています。

#### ◆委員会報告

◎出席委員会 副委員長 岩倉宏幸  
会員 46 名中 出席 30 名 出席率 68.19%

◎ニコボックス委員会 委員長 掛布真代

会長・副会長・幹事の皆さん・・・関中央 RC 会長 喜久生明男様、本日はようこそ関ロータリークラブにおいでくださいました。メンバー一同、大歓迎申し上げます。今後とも友好な関係を保ち、より良い街になるために活動して参りましょう。

関中央ロータリークラブ 会長、副会長、幹事様・・・本日はよろしく申し上げます。



山村、池村の皆さん・・・藤井会長、本日のロータリー財団の報告よろしくお願ひ致します。財団のお話、ロータリーにとって、とても大切なものです。楽しみにしています。

林(隆)、佐藤、伊佐地、酒井、藤井、掛布の皆さん・・・7月20日、みね家にて開催されました IGM では、ホストの大岩さんには大変お世話になりました。酒の量が少ないと見るやいなや、締めのご飯を鰻丼に臨機応変に変えたお姿は、出席者一同感動せずにはいられませんでした。パスト会長四人、現職会長、マドンナ二人の計7人で開かれた IGM は、とてもためになる話から、とてもとろくさい話まで、いろんな話の花が咲きました。マドンナお二人に対して、ロータリアンとしての人間的な巾の広さを見ていただけたのではないかと自負しております。なお、普通の IGM もありますので、ご期待下さい。

高井昭裕さん・・・素敵な誕生日カードありがとうございます。8月11日は来年から山の日、と一緒に富士山?に登れますように。

#### ◆幹事報告

◎9月の例会予定表配布

◎例会変更と休会通知

・可児 RC・関中央 RC。美濃 RC

◎第69回東海北陸道グループゴルフ会のご案内

日時：平成27年10月26日(月)9:00スタート

場所：グリーンヒル関ゴルフ倶楽部

◎例会終了後「理事、役員会」開催

#### ◆「R財団地区研修セミナーの報告」会長 藤井淳



7月26日都ホテルにて行われた地区ロータリー財団研修セミナーに参加してきましたので、ご報告申し上げます。基調講演は、最初に地区研修委員会委員長の加賀修さんから「奉仕の心の芽ばえ」「利他の心」「思いやりの心がおもてなしへ」などのお話がありました。「思いやりの心がおもてなしへ」の項目では、お客様がおみえになった時にコーヒ

ーやお茶をお出しすることがあると思いますが、部下や家族に煎れさせるのではなく、自分自らがお客さんのために煎れてあげるのが、本当の意味でのおもてなしであり、相手に歓迎されていることをより強く印象づけ、喜ばれるでしょう。勿論これは時と場合によりますし、不味いお茶やコーヒーしか煎れられないなら、止めた方が良い場合もあるでしょう。しかし自ら相手のために何かをしてあげることが、相手に悪い印象を与えることはないでしょう。人のために何かすることが、回り回って自分に返ってくる、とのことでした。しかし初めから見返りを期待して、何かをするということではなく、奉仕の精神に基づき人のために何かすることが大切であります。

次に「世界から見た地域のロータリー財団活動」についてロータリー財団地域コーディネーターの竹腰兼壽さんからお話がありました。また「正しい EREY にご理解を」という演題でロータリー財団地域コーディネーター補佐深谷友尋さんからお話がありました。EREY とは皆様御存知のことと思いますが、Every Rotarian Every Year の略で、全てのロータリアンに毎年寄付をお願いすると言う意味です。両方の演説に共通していたことは、「寄付金0の人を無くして下

さい」というものでした。またセミナーの行われた2日目の7月24日には、ナイジェリアで1年間ポリオが発生しなかった日であり、あと2年間ポリオが発生しないとナイジェリアでポリオ撲滅が宣言できます。それにはやはりワクチン代などの資金が必要であるので、ロータリー財団への寄付を宜しくお願ひしたい、とのことでした。ちなみに現在ポリオが常在する国はナイジェリアとアフガニスタン、パキスタンの合計3ヶ国だけになっています。それとマイロータリーから自分の所属するロータリアン一人一人の寄付履歴が確認できるので、確認して下さいと言われました。早速マイロータリーから、関RCの最近2年間の一人一人の寄付履歴を確認しました。関RCのほとんどの会員が寄付をしてみえることが確認できましたし、今年度は通常総会において会員全員から寄付を頂けることに皆様の賛同が得られたことは、大変嬉しくもあり、誇らしくもあります。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

話しが少しそれましたが、特別講演では「AMDA-MINDSの活動事例について」という演題名でAMDA 社会開発機構 国内事業部 民間連携担当の大谷聡さんから講演がありました。AMDAとは「The Association of Medical Doctors of Asia」アジア医師連絡協議会の略称で、アジアでの医療協力活動を目指して設立された特定非営利活動法人であります。現在はミャンマー、ネパール、インドネシアなどのアジアに限らず、アフリカのザンビア、シエラレオネ、中南米のホンジュラスでも「健康の向上」と「貧困の削減」などの人道支援活動を行っています。ロータリークラブとの連携もいくつか行われています。例えばネパールでは子供病院のベッドなどの支援、ミャンマーでは小口融資も行っています。小口融資と聞くと怪しげに思われる方もいるかもしれませんが、50～100ドルと少額の融資を無担保無利子で勤労意欲のある貧困層に貸し出すものです。返済率はほぼ100%です。また単に融資するだけでなく例えば畜産技術研修、農業技術研修などを行ってから実際に養豚業や農業を始めさせ、その後のフォローも行うなど、きめ細かいサービスが特徴です。まだロータリーのグローバル補助金の事業はないようですが、ロータリーによるモニタリングは行われており、近い将来グローバル補助金事業が誕生するかもしれません。

最後に10～20名程の8つのグループに分けられ、グループ討議が行なわれました。そこでは各クラブの財団寄付額がどれ位であるか、またどのような取り組みをして寄付金を集めているか、また寄付金の納付時期や補助金事業についての質疑応答がなされました。補助金事業の申請時期が11月と早く、次年度の各クラブの役員を決める時期と重なり大変なので、申請期限をもう少し遅くできないかとの要望が他クラブからありました。しかしこれは、地区ではまず各クラブからの申請を審査した後、審査が通った補助金事業に関しては、地区から国際ロータリーの方への申請する時期の問題もあり、タイムスケジュール的にこれ以上遅くすることはできないという回答でした。また寄付の金額は一人年間150ドルが目標ですが、関RCとしては、とりあえず今年は全員から100ドルを集めます、と述べましたが、特にそれについての議論はありませんでした。ちなみに2014-15年度の関RCの一人当たりの年次基金寄付額は113.95ドルでありまして、これは2630地区の全80クラブ中34位、とかなり上

で真ん中より上でした。また財団が目標としている一人年間150ドルを達成しているクラブは80クラブ中17クラブ(21%強)ありました。その一方で一人年間100ドルに満たないクラブが20クラブ(25%)もあり、若干の不公平感も否めない状況だと思いました。今回の地区ロータリー財団研修セミナーに参加して思ったのは、昨年秋にも開催された同研修セミナーには参加できませんでしたが、現職に就く前に参加しておいた方が、何かと参考になって良かったのにと残念に思いました。特に補助金事業申請を行うロータリー財団委員長さんや三役の方には、参考になる内容となっています。

◆IGMの報告 報告者 掛布真代  
日時：7月20日(月・祝) 18:30 場所：みね家  
ホスト：大岩寿喜子 リーダー：伊佐地英俊  
R情報：酒井泉 義務出席者：林隆一、藤井淳  
特別出席者：佐藤敏則、掛布真代



7月20日にIGMが行われました。ホストは大岩先生、会場はみね家さんです。テーマは、来年50周年を迎えますので、関ロータリークラブのテーマについてでした。資料として、過去10年間の関ロータリークラブのテーマを資料としてご用意いただきました。IGM出席者の中にも過去の会長ご経験者がいらっしゃいましたので、それぞれ、覚えておられる限りで、ご自身が会長で

いらした頃のテーマについて、その意味などをお話しいただきました。たとえば、43代の佐藤さんのテーマは「慈悲の心、そして実践」ですが、これは他人の痛み、苦しみが分かるようにとの意味が込められているそうです。現在の藤井会長のテーマは、One for All, All for Oneです。これは、ラグビーの合言葉として有名です。ひとはみんなのため、みんなはひとりのため、チームプレイをあらわすそうです。今年はラグビー事業を行うということで、ラグビーからの連想で思いつかれたそうです。

さて、来年の関ロータリークラブは50周年を迎えます。50周年のテーマについては、広く、メンバーの公募などで決めてはどうであろうかという提案がなされ、出席メンバーの賛同を得ておりました。もっとも、まじめな話をしていたのははじめの1時間程度で、残りは伊佐地先生の武勇伝と、参加者との丁々発止の掛け合いに、盛り上がりました。会話のキャッチボールをしつつ、決して正面に打ち返してはならず、必ず斜め上に打ち返して笑いを取らなければならないという、高度な会話が繰り返されました。以上でございます。

次例会のご案内 9月3日(木) 12:30  
「ガバナー公式訪問・3クラブ合同例会」  
於：関観光ホテル 9/1(火)の変更

\*\*\*\*\*  
例会：毎週火曜日 12:30 (第3週は水曜日に 18:30)  
例会場：岐阜県関市本町6-20 大垣共立銀行関支店2F  
事務局：岐阜県関市平和通7-10-25 アメリカ